第1回岩倉市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生

総合戦略検討委員会　議事録

日時：平成２７年８月７日（金）午前10時～12時

場所：岩倉市役所７階第３委員会室

出席者

委　員　千頭委員、井上委員、村田委員、水越委員、加藤委員、櫻井委員、廣中委員、

宮川委員、田中委員、日比野委員

事務局　市長、副市長、総務部長、秘書企画課長、加藤、小出、渡邊

加藤、町田（地域問題研究所）

欠席者　廣田委員

【次第】

１　開会

　事務局

皆さん、おはようございます。ただ今から、第１回の岩倉市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略検討委員会を始めさせていただきます。

私は本日の会議の進行を務めさせていただきます、秘書企画課長の長谷川でございます。よろしくお願いいたします。

進行に先立ちまして、本日の資料の確認をさせていただきたいと思います。

　（資料の確認:会議次第、委員の名簿、設置要綱、資料１～３、参考資料として第４次総合計画概要版、こどもたちキラキラいわくら子育て情報、岩倉のものづくりフォーカス）。どうぞよろしくお願いいたします。

　それでは、お手元の次第に沿って進めたいと思います。

２　委員の任命

・委嘱状交付

・委員紹介

３　市長あいさつ

　事務局紹介

４　委員長、副委員長の選出

・加藤委員から千頭委員を委員長、井上委員を副委員長として推薦され、全会一致で選出

　委員長・副委員長あいさつ

委員長

皆さん、改めましておはようございます。日本福祉大学の千頭でございます。ご指名いただきましたので、委員長として進行を務めさせていただきます。

私は第４次総合計画の見直し作業にも関わらせていただいておりますが、その前の第３次総合計画にも関わらせていただいております。20年近く岩倉市とお付き合いさせていただいております。第３次総合計画の時には学生とともに各地区を回らせていただいていましたが、その時の学生も既に40歳を超えておりまして、長いこと岩倉市とお付き合いさせていただいているのだな、と思った次第です。

この「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は日本中のほぼ全ての自治体が同時に策定を進めています。私もいくつかの自治体で策定のお手伝いをさせていただいていますが、自治体によって特性が出ていると感じています。

ある自治体では、「人口が減るということはけしからん。」との意見を一部の委員の方がとても強く主張されまして、「人口が減るなんてとんでもない。そんなことを言えば市民がみんな逃げ出してしまう。人口が増える予測をしろ。」というような意見を強硬に主張されまして、事務局も対応に苦慮されていると思いました。

人口が減るか増えるかは、頑張り次第による所もあるとは思います。数値で見ると人口が減るということをマイナスに考えてしまいがちですが、日本全体で人口が減る中で結果的にどうなるかは別として、いずれにしても住んでおられる方が元気で岩倉に住んでよかったと思っていただけたら良いと思います。

数字は後で見ていくと厳しい数字が出てくるかもしれませんが、それをマイナスだけに思わずに、その分頑張ろうと委員、市民の方が思えるような、そんな戦略になればと思います。委員の皆さまよろしくお願いします。

司会

ありがとうございました。次に、副委員長の井上委員、よろしくお願いします。

副委員長

　　副委員長を務めさせていただきます、いちい信用金庫の井上と申します。よろしくお願いします。

信用金庫はご存知のように地域との間で成り立っている金融機関でございます。岩倉市が元気で、産業においても人口についても活性化を図らないと私どもは生きていくことができません。

そういった意味で地域金融機関の立場で微力ではございますがご協力させていただきたいと思い参りました。よろしくお願いします。

司会

　　ありがとうございました。ここからは委員長に進行をお願いしたいと思います。

　千頭委員長よろしくお願いします。私ども議題で説明させていただく部分もございますが、ご挨拶ののち着座で説明させていただきますので、どうぞご理解のほどよろしくお願いします。

５　議題

委員長

　では、議題に移らせていただきたいと思います。

できるだけ、皆さんが自由に遠慮無くご発言いただけたらなと思いますので、よろしくお願いいたします。本日の議題は大きく３つの議題がある訳でありますが、次第６フリーディスカッションの時間を多く取り、皆さんからなるべく多くの忌憚のないご意見をいただけたらと思っておりますのでよろしくお願いします。

では、この人口ビジョンや総合戦略は全国でも進めている計画でありますので、国、県の動向及び岩倉市での策定の方向性を事務局からご説明いただきたい。それから現時点で推計している将来の岩倉市の人口について事務局からご説明していただけますか。

（１）「国及び県の動向について」及び「岩倉市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略策定基本方針について」

【資料１・２について事務局（小出）より説明】

（２）「岩倉市の人口動態について」

【資料３について事務局（地域問題研究所　加藤）より説明】

委員長

　　ありがとうございました。事務局から国・県の動向、岩倉市の総合戦略の方針、人口動態についてご説明をいただきました。後半で皆様にいろいろと今感じておられることをご発言いただきたいと思っております。ここまでで説明いただいた内容について、特に後半の将来人口について何か質問やご不明な点がありましたらご質問を受け付けます。

　この意味が分からなかったとか、これはどういう意味ですか、といった質問があればご発言いただいて、その後自由にご発言いただければと思っております。

副委員長

　　男女別の人口推計がありますね。先ほどの説明の中で、結構若い人が岩倉市にいるが、30歳～40歳前後になると転出すると聞きました。

先ほどの説明のとおり地域性もあると思いますが、岩倉市は交通の便が良いということでベッドタウン化していますね。若い人は住みやすいまちと感じています。というのはアパートやマンションが結構立地していますので、そういう点では住みやすいまちと言えると思います。しかしずっと住んでいこうとなると、定住できるようなまちになっていないと思います。

若い時には住むけれど、結婚して子どもができた時には手狭に感じる。誰しもあることですが、子どもができて、そろそろ持ち家を建てて将来を考えようとする時に、岩倉市はどうなのかなと思うことがあるということが課題だと思うのですね。そのあたりについて事務局ではどのようにお考えでしょうか。

子を持った世代をいかに岩倉市に定住していただけるかということを考えないといけないと思います。若い人はどうしても動きますからね。そのあたりをどう考えておられるか伺いたい。

委員長

　　１対１でお答えいただくというよりは、我々の中でも議論していきましょう。

　　出生数はそんなに減っていないのですよね。子どもを産むという視点では岩倉はそんなにマイナスではない。産んだ後、未就学児を連れて外に出て行ってしまう。そんな状況が読み取れてくると思います。ご質問は他にもありますか。

委員

　　若い20代くらいの人の流入が多いのは、大学や専門学校が市内にあるということでしょうか。

委員長

　２つご質問が出ましたので、どなたかご説明をお願いします。

事務局（地域問題研究所　加藤）

　20歳代の転入のことですが、大学は北名古屋市に名古屋芸大があります。しかし、この大学によって大学生が多く住んでいるということはあまり想像できません。20代というのは、恐らく就職期を迎えた世代や、新婚世帯が多いのではないかと思います。

岩倉市は、名古屋まで特急を利用すればわずか10分ということから利便性が良い点が挙げられます。更に、伏見からも乗り換えなしで、１本で行くことができるという利便性から、岩倉市を選んで住まわれているのではないかと思われます。

　　若い人は一旦岩倉市に住むと思われますが、その後ずっと住み続けられるまちになっていないとのご指摘につきましては、まさにその通りであります。私も平成に入ってから岩倉市の計画支援をさせていただいておりますが、当時からずっと言われている岩倉市の弱点でございます。かといって住宅団地を開発できる場所があるかと言われると、そうでもない。とは言うものの分譲マンションなどはここ最近増えてきている状況にあります。1戸建ては難しい状況ですが分譲マンションが増える中で定住化は一定程度図られてきたな感じています。

しかし、市街化調整区域も含めてわずか10.47ｋ㎡の面積ですので中々難しいところがあるのではないでしょいうか。ここ最近の動向を見ていると、一部の市街化調整区域において住宅を建てられるような緩和措置を行う事例があります。市内には北島地区などで90戸程度の住宅を供給した事例もあると聞いています。供給といっても行政が主体ではなく民間主導による宅地供給ではあります。

行政としても市街化調整区域から市街化区域編入の方策検討はしておりますが、愛知県全体としては人口減少を迎える中で、市街化調整区域を市街化区域へ編入する考え方はなく、大きなハードルを抱えています。定住促進を図っていくことを全く行わない訳ではありませんが、一方では人口バランスの良いまちを作って行こうとするのであれば、岩倉市の強みを伸ばしていくことも重要です。若い人が出入りしている岩倉市は人口バランスを考慮しても若い人に住んでもらうまちを目指すということが大事であることを数年議論してきた中で感じています。

ただ、市街化区域内には空き家もあり、市街化区域内農地も有しています。市街化区域内は宅地化していく方向で土地利用が進められていますが、一方で生産緑地地区が約11ha指定されている状況です。平成34年には、多くの農地が指定解除されていくと予想されます。このため、今回農地所有者を対象としたアンケートでは農地の将来的な土地利用の意向把握を目的としています。

なお、第４次岩倉市総合計画のまちづくり戦略の中で子育て世代の移住定住を促すというものがあります。

委員長

ありがとうございます。今回はフリーディスカッションの時間を多く取りたいと思っており、事務局からあまり多くのことを説明されると委員の皆さんが聞くばかりの時間となってしまいますので、ご説明はこのあたりにさせていただきたいと思います。

ご説明いただいた点はとても大事なポイントだと思います。

６　フリーディスカッション

委員長

　　委員の皆さんは岩倉にお住まいの方や岩倉と関係の深い方もお見えです。質問やご意見などもあろうかと思います。人口だけではないですが、仕事のことも含めて岩倉をどのように見ておられるか簡単に自己紹介を交えつつお一人当たり３分程度でお話しいただけませんでしょうか。

委員

私自身はここに来て半年程度なのですが、地域の皆さんからの声ということで、岩倉市においては市民の皆さんが自分のまちの魅力を見つけられていないということを感じています。ハガキやメールでご意見をいただきますが、市民からは「自分のまちにこんな場所があるなんて知らなかった。」というご意見が寄せられます。

先月も山車まつりの取材をしましたが、市民からは「興味はあったが、どんなことを催すのか分からないままで、これまで行ってみたことがなかった。」との意見が寄せられており、市民自身が市の良さを知らない。だから市外の人にまちの良さを言えないという状況があるのではないかと思います。

転入を考えている方に対して、自分のまちの良さを自分から発信することが出来ていないことは課題として考えているところです。もっと魅力を発信していくことの必要性を感じています。

委員長

　　情報の発信力が必要とのことですが、市民は自信を持っているのでしょうか。

委員

　　知らないことが多すぎて、知らないから自信が持てていないのではないでしょうか。

　　委員長

　　分かりました。この後時間があるようでしたら、情報発信についてご発言ください。

委員

私自身岩倉で生まれて、転勤により市外で勤務したこともありますが、生まれてからずっと岩倉市内に住んでいます。また地元岩倉市消防団にも所属しており、今の時期は、毎朝五条川小学校で訓練を行っております。

人口に話を戻させていただきますと、20代の若い方が一旦は岩倉市に転入し、30代で子どもをもうける頃になると転出していくというご説明が事務局の方からございました。アパートの管理もさせていただいておりますが、子どものいる世帯ではアパートが手狭になっていると感じています。

転入される人も遠い所からではなく、江南や名古屋など概ね近隣市からの転入が多いようです。

転入後また近隣市へ転出する傾向があるのではないでしょうか。夫婦でアパートに入ったとしても夫婦いずれかが岩倉市在住か近隣市町在住のケースが多いように感じています。

近隣自治体に対しては、岩倉市の知名度はそれなりにあると思います。先ほど委員からも発言がありましたが、岩倉市内では中々働く場所が少ないかもしれませんが、岩倉の良さを更にＰＲしていくことのより、仕事の面でのＰＲにも繋がれば良いのではと思います。

委員

親が子どもを育てるときに地域に密着して支援をしています。今は支援が充実していますが、私が子どもを産んだ25年前は今ほど支援が充実していませんでした。公共の施設を使用して子育てサークル活動を行っていたので、そこから行政との関係が持て、母親同士のグループづくりを行いながら岩倉で子育てを行ってきたことが土台にあって、ネットワーカーの勉強をさせていただいていました。今は会議等に参加させてもらっています。

元々は母親代表で出席していたものの、年齢的にも母親代表と称していいのか、子どもも小さくないので、私自身今の母親が何を求めているのか、国の政策の動向などを考えながら、岩倉で子育てをしてきた実績を踏まえてお手伝いができたらと考えています。

先ほど住まいのことで、若い人が家を持つために転出してしまうというご意見がありました。少し楽観的な考え方かもしれませんが、今後所得の格差が広がり、非正規雇用が増えてくる中で、１戸建てを持つことができるのかな、と思うことがあります。１戸建てを持つことは困難ですが、岩倉でずっと住み続けざるを得ない人が出てくるのではないかと思います。そうすると、岩倉で１人目を産んで、岩倉で良い子育て支援が受けられるため岩倉で住み続けても良いと思ってもらえるようになっていけば、空き家を紹介して住んでもらうことも可能なのではないでしょうか。所得的にもすぐに費用を捻出できなければ、銀行が融資してくれるか相談できればいいかなと思います。

不動産では、更に古い空き家を探して手頃な物件を紹介することもいいかもしれません。その次のステップとしてネットワークを使って、内装は○○商店に頼むと融通が利くという情報が得られれば、これから先経済的に厳しくなっていった場合に、岩倉で住み続けることができるための対策の１つでもあるのかなと思います。

そうすると、１人目が産まれた時に、市の政策だけではなく、ソフト面も重要になってくると思います。例えば先輩ママたちが子育てに関わったり、相談に乗ったりするなどを行うことにより、人のネットワークも重要になってくると思います。ソフト面が岩倉で充実してきたならば、市民も岩倉で住み続けようかなと考えてくれるかもしれません。お金ではない部分が今後必要になってくるのではないかと感じています。

また、人口を増やすことですが、お金や財産の少ない人が住みやすいまちになれば楽しいのではないでしょうか。そこでネットワークを作って、例えば服を持ち寄って物々交換するなど。

しかし一方で、社会保障費も上がってしまう。そのため、そうやって増えてきた人がどこかで仕事を得ることが出来れば、社会保障を受けずに済むので競争社会の中に入るような仕事ではなく、人が集まって行うことの可能な仕事を考えていくことが出来ればいいと思います。

せっかく若い人が増えているまちなので、新しい働き方が提案できればと思います。裕福ではないけれども社会保障は受けなくて良い人が増えればと思います。また、一人親世帯が住みやすいまちも重要と思っています。一人親世帯も社会保障を受けるとなると市の財政は大変になるので、一人親世帯同士でネットワークを形成しながら社会保障を受けずに住んでいくことのできるまちになればと思います。ひと・まち・しごとが絡み合っていくことが重要だと思います。

委員長

従来の成長パターンと違う切り口ですね。時間があれば最近の母親が何をお考えなのか教えてください。

委員

若い母親が多いとの話を受けましたが、保育園で子どもを預かっている私たちの感覚としても、若い母親が多いのかなと思っています。入園面接をしていると、仕事の関係で名古屋に行くので、交通利便性の高い岩倉に越してきたと答える人が多いように思います。また、岩倉市の課題と言われていることでありますが、子どもが小学生に入る頃に転出をされる若い世帯が多いのかと思います。その理由を私なりに考えてみますと、岩倉市の地価が高く家を建てることが出来ないということが考えられると思います。また、別の自治体の保育料が割安だったりすることで子育てがしやすい自治体へ転出してしまうのかなと思っています。

若い両親の世帯を留めおくにはどういったことが重要なのかと考えた時に、例えば他市では公立保育園の保育料を格安にしている事例もある。保育料を格安にしていくことも有効なのかなと思いつつ、本日のような会議で政策を立てていく中で何ができるのか、本当に実効性のある計画なのか、を考えていくことができればと思っています。

副委員長

金融面でのお話をさせていただきたいと思います。岩倉市の事業系融資に関しましては岩倉市だけでは我々は食べていくことが出来ません。何故かと言いますと、製造業の事業減少が顕著であるからです。もう一つ大きな問題としては、工場の横に家が立地していることが挙げられます。工場を設備投資に現状より拡張しようと思っても工場の横に家が建っているため思うように拡張することが出来ません。

できれば金融業界としては工場エリアを拡張していければとの思いがあります。豊山町ではＭＲＪなど航空機産業に力を入れています。岩倉市も豊山町の近隣市ですので、航空機産業に関係することができればとの思いがあります。

人口関係では、空き家対策も重要です。岩倉市の中で新しい土地を見つけようと思っても大変です。市の財政上厳しい中で市が積極的に土地を買って提供することもできません。そうした中で空き家など既存ストックを有効に活用するため民間活力を利用することができれば、地域活性化に繋がるのではないかと思います。私は金融面で岩倉市の地域活性化に繋がる方策を検討会で審議することができればと思っています。

委員

事務局の説明を伺ってみて、自分でも共感する部分が多々ありました。第１子を岩倉で産む人はすごく多いです。支援についても母親同士や子育て支援の保育士さんなどと集う会があり、第１子を育てるときの支援が手厚いと感じていました。

第２子を考えた時には、私は２世帯同居をしていたので転出することは考えていませんでしたが、やはり新婚で転入し、第１子を岩倉で産んだ知人は、次の子を考えた時のタイミングで、家をもう少し広くしたいと思うようです。

賃貸の場合だとちょっと手狭に感じるのは第２子を考えるときがきっかけになるようです。自分の親元に近い方が良いという考え方を持っている人もいて、第２子を考えるタイミングで転出される友人もいました。また、保育園や幼稚園から小学校に入るタイミングでアパートでは少し手狭と思うタイミングで、次の住まいを探すときに、岩倉ではファミリーで住むような家が手ごろな値段ではないようです。そのため、北名古屋市や江南、一宮の方に土地を買ったりマンションを買ったりすることが多いように見受けられます。

私は岩倉市南部の川井町に住んでいますが、周辺は田が広がっており、農地や市街化調整区域の制度を良く知らない人は、土地を探すにあたり農地を売ってほしいと相談されることもあります。相談には乗るものの、農家でない人が農地を買うことが難しいことから岩倉市で新築を建てることは難しいと感じています。

岩倉市は名鉄犬山線が走っており交通利便性も良く、まち自体もコンパクトなため役所への届け出なども容易にできることから住みやすいまちなので、岩倉に定住することを皆さん１度は考えるようです。ただ、土地の取得が難しく近隣市へ転出するケースが多いと思います。

空いている土地が少ないのが課題ではないでしょうか。そのことが変わっていくと人口も改善されると思います。最近、近所にアパートが建築されましたがターゲットが主に20代を焦点としたワンルーム、１ＬＤＫの間取りになっており、ファミリーが入居しやすい間取りになっていません。小学生を持つ母親としては、もう少し子どもが増えるようなファミリーをターゲットにしたアパートが増えるといいなと思うところがあります。

川井北島地区では高齢化が顕著に表れています。道を歩いていても子どもとすれ違うことがあまりありません。この地区は大山寺駅も近く利便性が高い地区なので、単身世帯をターゲットにした間取りになっているのかなと思います。ファミリー世帯が入居しやすいような取り組みを推進していただけると人口が増えるのかなと思います。

また、一旦転出された方がまた岩倉に戻ってくれるような対策があるといいかもしれません。例えば一宮から市内に転入すると、岩倉が鉄道沿線にあることなどから市街と比較して家賃が高くなってしまうので、駅から離れた場所にアパートが立地すると賃料が安くなるのかなと思います。

転出には地価も問題もあると思いますが、農地転用の対策をしていただくと新しい動きがあるのではないでしょうか。以上です。

委員

岩倉市の現状では、人口減少と同時に事業所数も減少しています。やはり新しい方の創業よりも廃業の方が多い状況です。中小企業庁が所管の団体になるので、この状況の中で私どもは中小企業に対して様々な支援をさせていただきます。

マスコミなどで地方創生、経済政策など国の支援についても報道されているところです。中小企業庁の政策の流れとしては、比較的大きな中小企業よりも個人経営などの小規模事業者の支援をしていく方向にあるようです。人口やまちを潤わせるためには、産業が活気づかなければまちも潤わないし仕事も潤わない。そのために私達の支援は小さな事業主を持続できるような形で支援をしていくことが非常に重要であると考えます。事業所が潤えば雇用も創出できると思います。地道な努力ですが岩倉に事業所を構えているところに一生懸命支援しています。

また個人事業所では後継者不足が問題になっています。個人経営は非常に厳しいため、子どもは親の仕事を継承せずサラリーマンになってしまう現状があります。岩倉市以外でも同様の問題はあると思いますが、事業承継、操業の問題を支援して、岩倉市の活力を取り戻していけるよう活動しています。

もうひとつ、国の支援策がいろいろありますが、政府が小規模事業者に光を当てた政策は急激に増えてきています。そういった中でも商工会だけではなく市役所と連携をしながら支援をしていく施策が非常に多く、総合戦略をきっかけに市と連携して実行できる政策提言ができればと考えています。

委員

感覚的な意見になりますが、若い人が出て行ってしまうという意見を聞きますが、私の住んでいる地域ではそういうことはないと思っています。私の住んでいる稲荷町は子どもが多い地区で、小学生が自宅の裏の路地で自転車に乗って遊んでいる光景を良く見かけており、さながら昭和の時代のような感じがします。市内でも地区によって偏りがあるのではないかと思います。

委員がおっしゃった川井町に私も以前住んでいましたが、あそこは昔と変わっていない地区ですね。川井町でいいなと思っていることは、少し行けばコンビニやスーパーがある。買い物利便性もあり、自然生態園でザリガニが釣れたり子育て環境にはとてもいいのではないかと思います。

環境がいいことをＰＲできたらいいのではないでしょうか。岩倉市のように田舎と都会とのバランスがとれたまちは少ないと思います。

定住についてですが、自分の子どもが保育園に行っているときに、知り合いの親から近くに土地がないか質問されたことがあり、土地を紹介しましたが、地価が高く購入を断念したケースがありました。最近では相続税の関係で土地を手放された方が増えたのではないでしょうか。今までは一極集中で土地を持ってみえた方が相続税の関係で土地を手放したこともあり、岩倉は土地が余っています。自宅の近くにも建売がありますが売れていません。売れても市内から市内の移動で、外から来ていないのかなと思います。外から呼び込めるような方策が出来ていないのではないでしょうか。また、市役所の方を悪く言う訳ではありませんが、市内には狭隘な道路がまだあるので、都市施設の整備を行うことにより宅地の需要が伸びるのではないでしょうか。

私も数年前に中古の家を購入しましたが、私の子どもが自宅を継ぐのかは分かりません。高蔵寺ニュータウンのように子どもが成長して出て行ってしまい、高齢者が多く住むまちになってしまうと人口ピラミッドがさらに崩れてしまうのではないでしょうか。住宅を購入して定住することは高齢化問題を将来に向かって棚上げしているような感覚を覚えます。それよりは、20歳代の若者が５年10年スパンで定期的に住み替えてくれる方が年齢構成のバランスが保てるのではないでしょうか。

その中で岩倉に残る方もいるでしょうし、転出される方もいると思いますが、若い人の転入転出を循環されることがまちの活性化にはなるのではないでしょうか。

商売やっていく上でも循環型にしていくことが活性化に繋がるのではないでしょうか。

委員

皆さんの話を聞いて思ったのは、課題は子育て世代の定住だとすると、やはり住宅のあり方によって人口減少を食い止めるやり方はあるのかなと思っています。最近だと一人親とその家族がアパートに住むケースも増えています。そんな1.5世代型住宅もあるのかなと。そうした提案のできる不動産事業者が事業を行うときに優遇を受けるような金融的支援を受ける。そのような支援も有効じゃないかなと思います。仮説の仮設ですけれども。

もう１つは行政の方にお聞きしたことですけども、この地域には大きな市民病院がないという話です。では大きな市民病院を建築するかというと、市の財政的にも持ち出しが増えるでしょうから、そういう意味では、小さな病院を核としながら小規模分散型医療をこの地域で展開することにより子育て世代が医療や心配事があった時にすぐ近くの病院に行くことができるような取り組みができると面白いなと思います。これは医療を軸にした雇用創出にも繋がると思います。

あとは、子育て世代の人が気になるのは学校だと思うので、地元の学校＋αとしてちょっと違った学校、例えば専門学校でもいいですけど、そうした学校を軸にした政策を行うこともいいのかなと思います。かなり仮説の話ではあります。

委員長

　ありがとうございました。皆さんの中でもいくつかオプションというか選択肢が出てきたといいますか、例えば航空産業の誘致やまとまった工業団地がほしい。一方で小さな事業所についても持続していけるようにしてほしいということ。

また、住宅も確かに農地がたくさんあって、農地が宅地になったら住宅が増えるなということは確かにありますが、でもどちらかと言えば新たに宅地を増やすのではなく、若い方が持続的に入れるようになれば、それはそれで１つオプションかもしれない。

必ずしも岩倉市に全部の種類の住宅を全部揃える必要はないのではないか、というオプションを言っていただいたと思います。

岩倉を一つの見方だけで色々検討することにはならないと思いますが、これからのことを考えるといろんなオプションの中でそれをうまく使ってどううまくバランスを取っていくのかということが大事であると思いました。

いずれにしても小学校入学前に転出してしまうことについて何かこれから考えるときの一つのポイントですね。最初に言われたように岩倉に住んでいる方がもっと自分のまちの魅力を知ってもらって、それを市外の人にＰＲしてもらえるよう市民の方の自信をつける。自信には裏付けがいる。そういうことも大事かなと思います。

最後にそろそろ時間も近づいてまいりましたので、どなたか一言発言したい方はいらっしゃいますか。なければ副市長に最後ご挨拶を頂ければと思います。

その前に一言あれば、どうでしょう。

委員

資料２の２ページのアンケートは非常に知りたいところだなと思います。なぜ転出するのかということは理由を知りたいと思います。その結果は非常に興味があります。

委員長

そうですね。事務局、次回検討会前までにアンケート結果がまとまったら、事前に委員にお送りして見てもらうことでいいですね。

委員長

では副市長どうでしょうか。皆さんから多くのご意見をいただきましたが。

副市長

本当に今日は貴重な時間をいただきましてありがとうございました。

これは岩倉の地図です。色が付いている所が市街化区域。開発できる区域になっています。白いところが農地。いわゆる市街化調整区域です。農地が多い所の中でも川井、北島、野寄、井上の４地区については特例で建物を建築できるところがあります。

そして岩倉は今若干人口が減っているということですが、もう少し特徴を申し上げますと、世帯数は少しずつ増えているんですね。核家族や単身世帯が増えてきているということが特徴にあります。また持ち家率は県内でも低い状況にあります。アパート等が多いというのは特徴なのかなと思います。

そのような中で、国の政策のなかでまち・ひと・しごとのというのは、「人が安心して生活を営み、子どもを産み育てられる社会環境を作り出すことによって活力に溢れた日本の創生を目指すことが急務である。」ということで仕事が人を呼び、人が仕事を呼ぶという好循環をまず確立することが重要だと思います。東京一極集中を何とかしなければならないこともありますが、地方への新たな人の流れを生み出すことの好循環についてですね、支えるまちに活力を与えるということが、もともとのまち・ひと・しごとの発想はそこだったんですね。

どうしても若者にスポットを当てなければいけない。働く場所を作って定住を促す、という流れに行くのかなと思います。岩倉市としてどんなことをやっているのかというと、ＰＲ不足との話も先ほどありましたが、いろんなご指摘もありました。

岩倉市としては、この４月から組織の中で企業誘致部門、住宅政策部門、シティプロモーション、広報、４つの部署の併任辞令を出しまして、まちづくり政策推進会議で対応しているところでございます。岩倉のＰＲばかりしていても実際に住むところがなければ来ていただけない。まちづくりは総合的に進めていかなければならないと実感している所です。その中でまち・ひと・しごとの交付金を活用して空き家、空地の対策のため調査に着手したところであります。今後総合戦略を策定して進めていかなければなりませんので皆様お忙しい所貴重なお時間を頂いて大変申し訳ありませんが、役所だけではやっていけない時代ですので、是非市民の皆様の色々な立場での忌憚のないご意見を言っていただければ結構ですので、是非ご協力をお願いしたいと思います。本日はありがとうございました。

事務局

　　次回は10月19日（月）の15時から本日と同じ第1委員会室です。よろしくお願いします。

委員長

本日の会議はこれで終了とします。ありがとうございました。